

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム 野の花		
所在地	長崎県島原市江里町乙 2346-1		
自己評価作成日	平成21年12月12日	評価結果市町村受理日	平成22年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族、地域の方々との交流を大切に考え、面会等の訪問にも気軽に出入りしやすい、明るくオープンな雰囲気ホーム作りを心がけてます。8月の夏祭りは、地域の方々、家族の方々の協力の下、盛大賑やかに行っています。今年も800名程の集客があり、地域行事の一環として定着してきました。また9月の敬老会では、利用者の家族を招待し、ホテルでの食事をしています。終了後は、利用者家族との座談会を開き意見交換の場を設けています。また、地域の方に参加して頂いての避難訓練、餅つき等、様々なイベントに力を入れ、あらゆる分野から多くの方々との接点を持てるよう心がけています。昨年から取り組んできた地域の小学校との交流も、各イベント時には、お互いに参加し、訪問による交流会も、授業の一環として定着してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、開設当初から地域とのかかわりを大切と考え、日頃からのあいさつや行事へのお誘いなど交流を継続している。そのため、交流は盛んで利用者が日頃から地域の一員として生活できる環境となっている。また、理念の一つに掲げている「利用者の尊厳」を重視し、言葉使いや更衣や誘導など支援の際の細かい配慮があり、利用者が安心して居心地良く過ごせる基盤ができています。更に職員の離職が利用者一番のダメージと考え、職員育成に積極的に取り組んでおり、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりなど利用者本位の支援にかかる取り組みに工夫がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はつくりあげており、理念を原点として取り組んでいる。	「喜誇身体」の理念のもと、全職員が利用者の尊厳を重視した支援を実践している。また、利用者が楽しみながら毎日を過ごせるよう、散歩やおしぼり洗いなどの生活リハビリ、ラジオ体操等体力の保持と心のケアのための支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、清掃活動等には積極的に参加している。また当ホームのイベント時には、地域の方々への呼びかけを行い、参加される方も多い。	自治会に加入し、月1回は利用者と共に町内清掃に参加している。小学校との交流も盛んで年2回の事業所訪問は5年生の授業として、また中学生は職場体験の学習の場となっている。事業所が行う夏祭りは地域住民の楽しみとなっており、多数の参加があるなど交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、清掃活動等は利用者と一緒に参加し、地域の方との交流を大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題の中に取り入れ話し合っている。また、結果はファイル化して回覧している。	2ヶ月に1度、家族、自治会長、市の担当者、管理者等のメンバーで開催されている。家族の要望でインフルエンザ予防の為、外出の頻度の減少や行事の延期等、意見を取り入れているが出席者の意見が少なくサービス向上の反映にまでは至っていない。	参加者が意見を出しやすい雰囲気作りを行い、出された意見や提案がサービス向上につながるような取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との交流は常に多く持ち、協力関係はできている。	市の担当者が決まっており、事業所の問題などは法人内のケアマネージャーを通して、密に連絡を取りあっている。担当部署からの訪問もあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常玄関は施錠せず、自由に入出りできる状況にある。研修、勉強会等を通じ、全職員が理解したうえで、取り組んでいる	物理的な拘束だけでなく、言葉の拘束についても日々職員に説明し意識付けをしている。内部、外部研修も行っており、職員間では言葉の拘束と捉えられる発言があれば、その場で注意し合いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外部の勉強会、研修会を通じ、学ぶ機会を設けている。職員間の声かけ、利用者の観察を密に行い、防止に努めている。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外部の勉強会、研修会を通じ、学ぶ機会を設けている。職員間の声かけ、利用者の観察を密に行い、防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内外部の勉強会、研修会を通じ、学ぶ機会を設けている。制度の必要性がある方には活用できるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、話す時間を必ず持ち、状況報告を行い、必要があればその都度、話し合いの場を設けている。また、介護ミーティング等を利用し、解決策を見出している。	面会時や電話でも家族と話す機会を持ち、希望や意見を聞きだしている。また、遠方の家族にはメールを活用して情報交換を行なっている。以前、本人や家族から要望があった外食の実施については、事業所内で検討した結果、現在は年3回機会を設けて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、親睦会等を通じて、職員の意見を聞く機会を設け、改善、軌道修正を行っている。	毎日夕方の反省会、週1回の介護ミーティング等で、職員の日々の気付きや提案を話せる場を多く作っている。介護に関する提案の中でも特に安全面については即対応し、浴槽内の手すりや、すべり止めのマットの交換等、敏速に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施。法人内外の勉強会にて各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講は各職員の力量に応じて勧めている。受講の際は、勤務体制を整え、研修を受ける機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのスポーツ交流、勉強会等の機会を多く持ち、お互いのレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から、何度も本人と面談し、希望を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から、何度も家族と面談し、希望を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度ほぼ軽い方が多い為、昔ながらの方法から学び取れるものが多い。教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族的な考えを持ち、常に家族と話し合いながら、共に支援していくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する場所、例えば墓参り、友人宅への訪問など、希望に応じて職員が同行している。	近所の人への訪問がある。利用者の希望に沿って、墓参りを兼ねてのドライブ、自ら果物を栽培していた果樹園や、馴染みの場所を訪ねるなど職員が同行支援している。法事やお見舞い等は家族と出向いており、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ、利用者間でのコミュニケーションが取れるよう支援している。必要に応じ、職員が介入する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会にはいっようスタッフにも周知させている。時々、家族とも電話などで会話を取り、継続的な関係を保てるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で、本人の希望、意向を組み取り、一人ひとりに沿った生活が出来るよう検討している。	毎日の生活の中で会話し、本人の意向や希望を把握し職員で共有している。発語困難な利用者は表情、手ぶりで希望や意向を把握するよう努めている。本人の生活歴、職歴等をヒントに本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中で、その人らしさを考え、現在に至るまでの生活暦も把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常生活の様子観察にて、総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見(聞き取りが出来る方のみ)家族の意見を十分に取り入れている。また、各利用者の介護計画期間表を事務所に貼り、終了前に家族と相談しながら、介護ミーティングを利用し見直しを行っている。	介護計画は3ヶ月に1回見直している。また、変化があればその都度介護ミーティングで話し合い見直している。計画作成にあたっては、本人や家族の希望、要望を聞き取り反映しているとのことだが、まとまった記録がない。	本人や家族の希望、要望を聞き取り介護計画に反映するためには、会話で終わらせず、内容を記録し介護計画の作成に役立てるよう工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はもちろんの事、日誌、申し送り等を通じて情報を共有化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を生かした支援は必要なので、状況に応じ、柔軟に支援する事を心掛けている。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば活用し、安全に楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を継続し、各医療機との連携を図っている。また、通院、往診など、個々に合った受診対応を行っている。	利用者は利用開始前からのかかりつけ医を継続している。眼科、皮膚科、耳鼻科等など必要に応じ受診している。皮膚科の往診や夜間緊急時の体制も整備されており、適切な支援ができています。家族へその都度受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって、健康管理は十分に支援されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。入院時は随時面会し、関係者との情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、関係者との話し合いの上、方向性を検討している。	契約時に方針の説明をしており、段階を追って説明し意向を確認している。看取りの時期がきた段階で家族に同意書を取っている。管理者は職員の精神的ケアを行っており、全職員は方針を理解し、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの周知、緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防署立会いの下、地域の方々を含めた避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を利用者も参加し、消防団、地区住民の協力のもと実施している。各室にスプリンクラー、自動火災報知機が設置され、避難誘導連絡網、緊急連絡網はわかりやすい場所に掲示されている。非常災害に関するマニュアルは整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心掛けています。プライバシー、守秘義務は、守る事を徹底しています。	トイレ誘導は耳元で「ちょっと話を聞いて下さい」と声かけし更衣はドアを閉めるなどプライバシーの確保、羞恥心に配慮している。個人情報の書類は事務所に保管されており、職員には守秘義務の誓約書を取っている。便りなどへの写真掲載は契約時に同意を取るなど尊厳への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の方にも、毎日の生活の中で思考、希望などを理解し、自分らしさの支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを基本に、希望に沿ったケアが出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者に関しては、イベント時、外出時など希望に応じて化粧をしている。月に一度美容師訪問によるカットサービスを行っているが、希望があれば、行きつけ美容室にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けに関しては、出来る範囲内でのお手伝いをお願いしている。食事の際は、職員も一緒に食卓につき、会話を取りながら、楽しく摂取できる状況を作っている。	嗜好調査があり、利用者のアレルギーや好き嫌い等を把握している。昼食、夕食は配食であるが日曜日は、利用者と職員と一緒に手作り料理を楽しんでいる。刻み食は取らせてず、職員が横で食べやすいよう支援しながら、一緒に食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を摂る事で、状態観察を行っている。食事以外にもお茶タイムを設け、脱水には十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ着用の方も、昼間はリハパン対応にて定期的な排泄介助を行い、自立支援に向けたケアを行っている。	利用者のほぼ半数が排泄について自立しており、オムツ着用の利用者も夏は全員布パンツを使用し、快適に過ごしている。職員は一人ひとりの排泄パターンを細かく把握し、オムツはずしに意欲的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、アクティビティへの参加等で適度な運動量を保っている。また水分補給にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝のバイタル測定時に希望者を募り、希望に応じ対応している	ユニット毎に曜日は決めてあるが、希望があれば日曜以外は毎日入浴できる。入浴拒否には職員や時間、場所を変え、声かけしている。同性介助も行なっている。季節により菖蒲湯、ゆず湯、足湯では温泉の素を入れ、楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に、状況に応じ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的、用法、用量の変更の際は副作用にも十分気をつけ、症状に変化があった場合は主治医への相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活歴、力量に応じて、役割分担を決めている。また外出、レクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、即対応するように努めているが、業務の関係で、即対応できない場合もある。	散歩は利用者の希望に沿って敷地内を、季候や体調を見ながら、行っている。車椅子の利用者も一緒に週1回、ドライブしながら買い物を楽しんでいる。外出のたつての希望があれば、遅い時間であっても対応するよう努めている。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は力量に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由。希望があれば、代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花等にて、明るく家庭的な空間を出すよう心掛けている。	掃除が行き届き、清潔で換気がよく、気になる臭気もない。テレビや職員の話し声の音量も不快感なく、穏やかな雰囲気となっている。季節の手作り壁飾りや、生花で季節感を演出している。リビングや和室など気分によって自由に過ごせる空間があり、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間が保てる。また、共同空間の中に談話室を設け、炬燵にての団欒が楽しめるような居場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込みは自由としている。	テーブルやタンス等、自宅で使っていた物が置かれ、個性のある居室になっている。掃除や室温、湿度、換気等は職員が適切に対応し、居心地よく過ごせている。家族の宿泊も自由にでき、寝具はホームで準備されており、利用者が安心して過ごせる配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意し、自立した生活が送れるような工夫もしている。また、野菜作り、お花作りなど、残存機能をいかせる環境を作っている。		